

- 問1 日本の関東地方、現在の埼玉県に位置する前方後円墳からは、115文字の銘文が刻まれた金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）が出土しています。この鉄剣に記された「ワカタケル大王」という名は、当時のヤマト政権の首長を指すとされています。この鉄剣が出土した古墳の名称として正しいものを選んでください。（2016年 三重県公立入試 類似）
1. 稲荷山古墳 2. 江田船山古墳 3. 大仙陵古墳 4. 箸墓古墳
- 問2 5世紀の朝鮮半島にある伽耶（加羅）地域から大和政権が得ていた資源で、武人の埴輪に見られるような鎧や武器の材料となり、政権の武力強化に大きく貢献した金属は何ですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）
1. 鉄 2. 青銅 3. 銅 4. 金
- 問3 大和政権（ヤマト王権）において、朝鮮半島から移り住んだ人々の知識や能力が、政権の運営にどのように活かされたか。当時の記録や実務に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）
1. 文字の読み書きや計算の能力を活かし、公文書の作成や財政管理といった行政実務を担った。 2. 将軍から土地の支配権を認められる代わりに、軍役や番役を果たす主従関係の基盤となった。 3. 九州北部の沿岸部で、唐や新羅などの外国勢力の侵攻を監視・防御する軍事的な役割に特化した。 4. 独自の文字を開発することで、それまで口伝のみであった日本の神話を初めて文字で記録した。
- 問4 3世紀後半から古墳時代にかけて造られた、円形の後円部と方形（四角形）の前方部を組み合わせた、上空から見ると鍵穴のような形をしている古墳の名称を答えなさい。（2018年 長崎県公立入試 類似）
1. 前方後円墳 2. 方墳 3. 円墳 4. 積石塚
- 問5 埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には「獲加多支鹵大王」という称号が刻まれています。これと同様の称号が記された鉄刀が熊本県の江田船山古墳からも出土していることから推測できる、5世紀後半の日本の政治状況として最も適切な説明を選んでください。（2021年 大阪府公立入試 類似）
1. 各地域の豪族が独自の王号を名乗り、中国の王朝と直接外交を行っていた。 2. 東北地方から九州地方まで、完全に統一された律令国家が成立していた。 3. 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。 4. 邪馬台国の卑弥呼による統治が、近畿地方を中心に安定していた。
- 問6 日本最大の前方後円墳である大仙古墳など、古墳時代の遺跡や出土品に関する説明として誤っているものを、次のうちから1つ選びなさい。（2026年 徳島県公立入試 類似）
1. 古墳の周囲や墳丘には、素焼きの土器である埴輪が並べられた。 2. 女性の姿などをかたどった土偶が、魔よけや豊かな収穫を祈るために作られた。 3. 豪族の権威を示すための副葬品として、銅鏡や鉄剣などが納められた。 4. 大仙古墳のように円形と方形を組み合わせた形状の古墳が造られた。
- 問7 埼玉県にある稲荷山古墳から「ワカタケル大王」の名が刻まれた金錯銘鉄剣が出土した一方で、熊本県にある江田船山古墳からも同様に大王の名が記された鉄刀が見つかっています。これらの発見から推測される、5世紀後半における大和政権の状況として最も適切なものはどれですか。（2017年 大阪府公立入試 類似）
1. 朝鮮半島から伝わった鉄器の製造技術が、関東地方でのみ独占されていた。 2. 大和政権の本拠地が、近畿地方から関東地方へ移転した。 3. 九州地方と関東地方の豪族が連合して、大和政権に対抗していた。 4. 大和政権の支配力が、九州から関東までの広い範囲に及んでいた。
- 問8 中国の歴史書である『宋書』倭国伝には、5世紀に倭（日本）の王が南朝へ使いを送った「倭の五王」の記録があります。このうち、国内の稲荷山古墳（埼玉県）から出土した鉄剣の銘文に記された「ワカタケル大王」と同一人物であると考えられている王の名称として正しいものを選びなさい。（2019年 愛媛県公立入試 類似）
1. 倭王 武 2. 倭王 讃 3. 倭王 済 4. 倭王 珍
- 問9 5世紀後半の日本列島において、大和政権の支配力が関東地方から九州地方にまで広く及んでいたことを示す歴史的背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2019年 長崎県公立入試 類似）
1. 邪馬台国の女王である卑弥呼が魏から贈られた親魏倭王の称号を、地方の有力豪族に分け与えて統治した。 2. 埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳から、同一の最高権力者である大王の名を刻んだ鉄剣・鉄刀が出土した。 3. 聖徳太子が十七条の憲法を制定し、地方の豪族に対して大王への忠誠を誓わせる制度が全国に普及した。 4. 白村江の戦いでの敗北を機に、関東から九州にかけて山城や防人が配置され、軍事的な中央集権化が進んだ。
- 問10 2019年に「百舌鳥・古市古墳群」の一部として世界文化遺産に登録された大仙陵古墳（仁徳天皇陵古墳）について、その形状と発見された遺物の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2020年 東京都公立入試 類似）
1. 形状：前方後円墳、遺物：大陸から伝わった陶磁器の破片 2. 形状：円墳、遺物：青銅で作られた大型の銅鐸 3. 形状：方墳、遺物：死者の身分を示すための仏像 4. 形状：前方後円墳、遺物：人や動物の形をした埴輪
- 問11 中国の歴史書『宋書』倭国伝には、5世紀に中国の南朝へ相次いで使者を送り、自身の地位を認める称号を求めた「讃・珍・済・興・武」という5人の王が登場します。これらの王を総称して何と呼びますか。（2025年 埼玉県公立入試 類似）
1. ヤマトの大王 2. 倭の五王 3. 渡来人 4. 遣隋使
- 問12 古墳時代における渡来人の移動と技術伝来が、当時の日本列島の社会に与えた影響について述べた文章として、最も適切なものはどれですか。（2025年 岩手県公立入試 類似）
1. 全国に国分寺や国分尼寺が建てられ、仏教を中心とした国家体制が完成した。 2. 青銅器と鉄器が同時に伝わり、金属器を使った道具の製造が初めて行われた。 3. 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。 4. 大陸からの技術移転により、日本列島で初めて米作り（水稲耕作）が始まった。
- 問13 古墳時代の日本列島において、大陸から移住した渡来人が果たした役割と、彼らがもたらした文化的影響について述べた文として正しいものを次の中から選びなさい。（2019年 岡山県公立入試 類似）
1. 漢字を伝えることで、ヤマト政権における外交や記録、財政などの実務を支えた。 2. 青銅器を用いた祭祀の道具を伝え、卑弥呼が統治する邪馬台国の成立を助けた。 3. 稲作の技術を初めて伝え、狩猟・採集中心の縄文文化から弥生文化への転換を促した。 4. 鉄砲の伝来に寄与し、戦国大名の戦い方や城の構造に劇的な変化をもたらした。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、雄略天皇（大泊瀬幼武尊）を指すとされる「ワカタケル大王」の銘文が刻まれていました。これは、5世紀後半のヤマト政権の支配力が関東地方にまで及んでいたことを示す決定的な証拠となっています。熊本県の江田船山古墳から出土した鉄刀にも同様の名が見られ、支配の広がりを見えています。
問2	答え 1 鉄	大和政権は、朝鮮半島の南部に位置する伽耶（加羅）地域から鉄資源を安定的に確保し、それを用いて高度な武器や鎧を製造しました。当時の古墳から出土する武人の埴輪が鎧をまとっていることから、この金属が軍事力の象徴であったことがわかります。これにより、政権は軍事的な優位を築きました。
問3	答え 1 文字の読み書きや計算の能力を活かし、公文書の作成や財政管理といった行政実務を担った。	渡来人は優れた技術者であるだけでなく、文字や計算に精通した知識人でもありました。大和政権は、彼らを「史（ふひと）」として起用し、記録の作成や、貢物（税）の管理などの高度な事務・財政実務を担当させることで、政権の統治機構を強化しました。これに対し、防人は主に東国から徴収された兵士が九州の警備にあたった制度であり、御家人は鎌倉時代の武士を指すため、時代や役割が異なります。
問4	答え 1 前方後円墳	古墳時代を代表する墓の形式であり、円形と方形を組み合わせた独特の形状が特徴です。当時の有力者の権力の大きさを示す象徴として、近畿地方を中心に全国各地へ広がりました。
問5	答え 3 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。	遠く離れた埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳の両方から、同一の大王（ワカタケル大王）の名を記した遺物が出土したことは、その大王を中心とする大和政権の権威や支配力が、すでに関東から九州まで広範に及んでいたことを裏付ける有力な証拠となっています。
問6	答え 2 女性の姿などをかたどった土偶が、魔よけや豊かな収穫を祈るために作られた。	土偶は縄文時代に作られたものであり、古墳時代のものではありません。古墳時代には、古墳の周囲に埴輪が立てられ、内部には副葬品として銅鏡や鉄剣などが納められました。
問7	答え 4 大和政権の支配力が、九州から関東までの広い範囲に及んでいた。	関東（埼玉県・稲荷山古墳）と九州（熊本県・江田船山古墳）という遠く離れた地域の双方から、大和政権の王であるワカタケル大王の名を記した遺物が見つかったことは、当時の政権の政治的影響力が日本列島の広範な地域に及んでいたことを証明する重要な歴史的事実です。
問8	答え 1 倭王 武	中国の南朝に朝貢した「倭の五王」のうち、最後に登場する「武」は、稲荷山古墳の鉄剣銘文にある「ワカタケル（獲加多支鹵）大王」と同一人物であるとする説が有力です。当時の倭の王は、朝鮮半島での軍事的な指揮権などを認めてもらうため、中国の皇帝から称号を得ようと外交交渉を行っていました。
問9	答え 2 埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳から、同一の最高権力者である大王の名を刻んだ鉄剣・鉄刀が出土した。	埼玉県の稲荷山古墳で出土した鉄剣には「獲加多支鹵大王（ワカタケルオオキミ）」という文字が刻まれていました。同様の銘文を持つ鉄刀が熊本県の江田船山古墳からも見つかったことから、5世紀後半には近畿地方の大和政権が、関東から九州に至るまでの広い範囲を勢力下に置いていたことが実証されています。
問10	答え 4 形状：前方後円墳、遺物：人や動物の形をした埴輪	大仙陵古墳は、円形と方形を組み合わせた日本最大の方後円墳です。この古墳からは、円筒埴輪だけでなく、当時の衣服や武具の様子を知る手がかりとなる家・人間・動物などをかたどった「形象埴輪」が発見されています。銅鐸は主に弥生時代の祭祀に使われたものであり、仏像は後の飛鳥時代以降に本格的に伝来したものであるため、古墳時代の特徴としては埴輪が最も適切です。
問11	答え 2 倭の五王	5世紀に中国へ使者を送った5人の王は「倭の五王」と呼ばれます。当時の日本（倭国）は、東アジアの国際情勢の中で有利な立場を得るため、中国皇帝を中心とした冊封体制（朝貢外交）に加わり、自らの権威や軍事的な指揮権を証明する称号（官職）を求めて外交を展開しました。
問12	答え 3 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。	古墳時代に朝鮮半島から渡来人が移住したことで、須恵器の製造技術に加えて漢字、儒教、仏教、機織などの高度な文化や技術が伝わり、日本の技術や生活文化が飛躍的に発展しました。
問13	答え 1 漢字を伝えることで、ヤマト政権における外交や記録、財政などの実務を支えた。	渡来人は文字（漢字）の知識だけでなく、養蚕、機織り、土木技術、須恵器の製作など、当時の日本にはなかった高度な技術を伝えました。特に漢字を用いた文書作成能力は、ヤマト政権（大和朝廷）が組織を運営し、大陸の諸国と外交交渉を行う上で欠かせないものとなりました。鉄砲は16世紀、稲作や青銅器は弥生時代以前に伝わったものであり、時期や内容が異なります。